

# 風土記の丘の花だより<sup>193</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2023年7月8日)

蒸し暑い日が続き、少し歩くだけで汗が噴き出てきます。でもまだ7月ですね。これからますます暑くなることでしょう。熱中症を人ごとと思わず、万全の準備をして山歩きや自然観察を楽しんでください。



旧柳川家住宅の庭でナス科のギンパイソウの白い花が咲いています。でも、毎日たくさん咲いて、いつでも見られる花ではありませんから、運がよければ写真のような花が見られます。数年前、私が風土記に来た頃、この花の名札は、たしか「キンバイソウ」になっていたと思います。ギンパイは「銀杯」のことで、光沢のある白い花をそれにとたとえたのでしょう。どこでどう間違ったのか分かりませんが、ややこしい名前ですね。ちなみに、キンバイソウはキンポウゲ科の黄色い花です。それは「金梅」のことです。(石灯笼の右側で塀を向いてしゃがんでください)



メハジキのピンク色の花が咲いています。この花だよりの置き場から数メートル坂を上って、左の大きなチャンチンモドキの木の奥です。これは自生ではなく、当館の職員が植えたものです。メハジキはシソ科の植物で、河原などの日当たりの良いところでよく見られます。背が高くなるので見つけやすい花です。茎を触ると、四角くて、シソ科の特徴がよく分かります。



大駐車場のあたりでハマオモトの花が咲いています。ふつつうハマユウと呼び「浜木綿」という漢字を充てますね。でもホンマは、ハマオモトです。本来は海岸に生える大型の草で、種は波によって運ばれます。和歌山県の海岸沿いにはごく普通に自生していて、さすが南国紀州和歌山という感じがします。万葉植物でありながら、万葉植物園にはなく、ここのほか、柳川家の北側通路沿いにも植えられています。それも花茎が伸びてきています。開花を楽しみにしてください。



トイレ下のアジサイの坂で上を見上げるとオレンジ色のノウゼンカズラが今を盛りに咲いています。サクラの木に巻き付いているので、つる植物であることが分かります。聞き慣れない「ノウゼン」とは何ぞや、と思って少し調べてみました。漢字では「凌霄花」と書き、凌霄とは「空をも凌ぐ」という意味だそうです。木に巻き付いて空より高く成長するというのでしょうか。おかげさまで、一つ賢くなりました。

松下